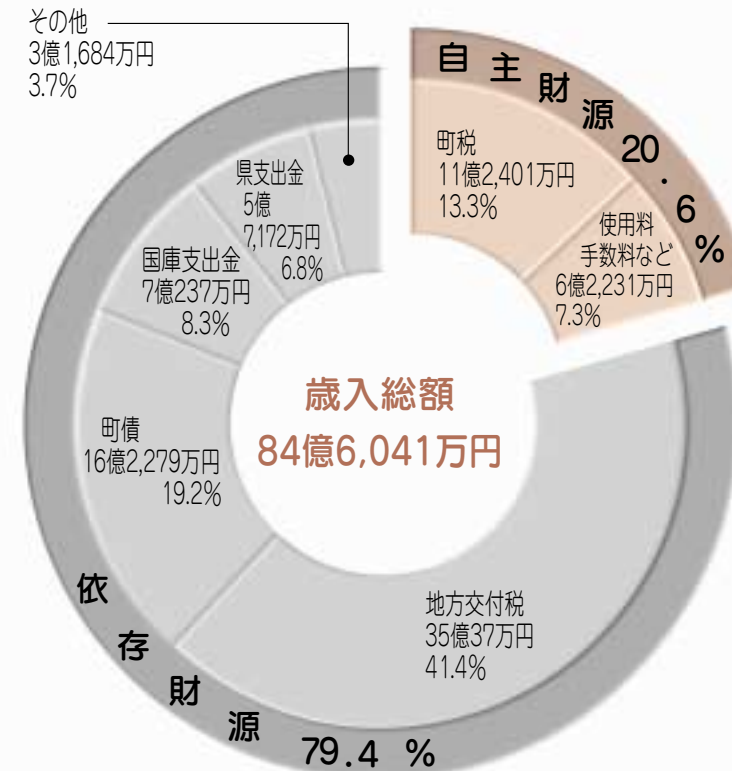


決算

総額83億円で町づくりを展開

各種事業を着実に進める

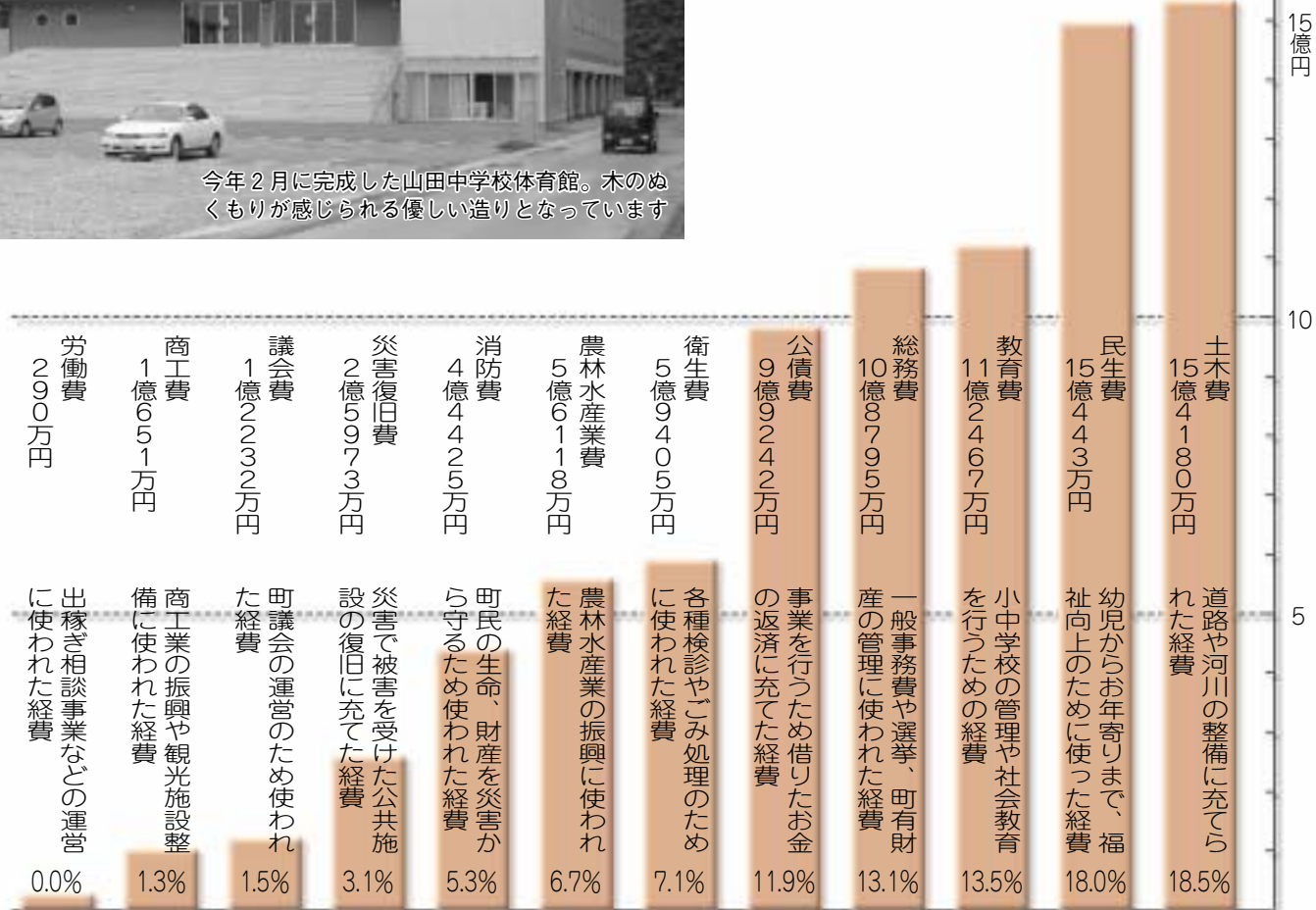
一般会計歳入・歳出決算状況



歳入 自主財源は全体の20%

平成十四年度の一般会計の歳入（町に入ったお金）総額は八十四億六千四百一十一万円、前年度比五・一％の減でした。性質別に見ると、町が独自に確保できる自主財源（町税・使用料・手数料など）は、全体の二〇・六％となっています。一方、国、県から配分されるお金や町債（町が資金調達のため政府や銀行から借りたお金）などの依存財源の割合は七九・四％。十三年度と比べると二・七ポイント自主財源が増える結果となりました。

歳出総額 83億4,221万円



歳出 15億円で土木費トップ

項目別では、国からの地方交付税が最も多く三十五億三十七万円、歳入全体の四一・四％を占めています。次に多いのが町債で十六億二千二百七十九万円。山田中学校屋内運動場改築事業や柳沢北浜地区土地区画整理事業などの起債のほか、臨時財政対策債（平成十三年度から三年間だけの特例の起債）が含まれていて、前年度より一三・七％の増となりました。

三番目に多いのが皆さんから納めていただいた町税で十一億二千四百一十一万円、十三年度と比べて一千七百六十五万円（一・五％）の減となりました。

国庫支出金は七億二百三十七万円で、山田中学校校舎改築事業の完了などに伴い、前年度に比べ四四・五％の大幅減となっています。

歳出（町が各種事業などに使ったお金）の総額は八十三億四千二百一十一万円でした。

項目別に見ると、最も多く支出されたのが土木費で十五億四千八百八十万円となりました。主な使い道として長林大浦線改良などの道路新設改良に一億六千五百一十万円、柳沢北浜地区土地区画整理事業に五億八千九百四十二万円があります。続いて多いのが民生費の十五億四百四十三万円です。主なものに身体障害者援護措置委託料四千三百四十万円があります。

次に多かったのは教育費で一億二千四百六十七万円です。山田中学校校舎改築事業が前年度で完了したのが主な減額の理由となっています。

由となっています。総務費は〇・九％増の十億八千七百九十五万円。主なものに船越防災センター・船越支所建設工事七千三百二十九万円があります。

町債の返済に充てる公債費は九億九千二百四十二万円で前年度と比較すると五千四百二十九万円（五・八％）増えました。

衛生費は六・九％増の五億九千四百五十万円。斎場増改築工事に二千三百六十六万円使われました。

農林水産業費は五億六千八百十八万円、主なものに大沢、田の浜両漁業集落環境整備事業があります。大雨の災害に伴う公共施設災害復旧事業の増により、最も大きな伸び率（九八・九％）となった災害復旧費は、二億五千九百七十三万円となっています。